

令和3年度 高岡第一学園幼稚園教諭・保育士養成所
学校関係者評価委員会報告書

学校法人 高岡第一学園 高岡第一学園幼稚園教諭・保育士養成所は、令和4年5月13日に令和3年度学校関係者評価委員会を開催し、令和3年度自己評価に基づいて学校関係者評価を実施しましたので、以下の通り報告いたします。

令和4年5月31日

高岡第一学園 幼稚園教諭・保育士養成所
学校関係者評価委員会

1. 開催日時 令和4年5月13日(金) 15:00～

2. 開催場所 高岡第一高等学校 第一会議室

3. 学校関係者評価委員

南 修朗	学校法人 高岡第一学園 高岡第一高等学校 校長
中田 千津子	社会福祉法人 かつみ野 堀岡保育園 園長
柳瀬 明美	本所卒業生
高橋 和克	本所父兄後援会 会長

4. 学校教職員

石澤 宣子	本所 所長
向井 喜広	本所 副所長
古村 勇樹	本所 教員 (総務担当)
本林 由絵	本所 教員 (教務担当)
橋本 和美	本所 教員 (実習担当)
平川 杏奈	本所 教員 (総務担当)

5. 評価項目ごとの学校関係者評価委員からの評価・意見

自己評価 : 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

(1)教育理念・目標

	項目	自己評価	委員意見・評価
①	学校の理念・目的・育成人材像等は定められているか。	4	・特に意見なし
②	学校の理念・目的・育成人材像等が学生・保護者等に周知されているか。	4	
③	学校の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。	4	

(2)学校運営

①	目的等に沿った運営方針が策定されているか。	4	・特に意見なし
②	運営方針に沿った事業計画が策定されているか。	4	
③	運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか。	4	
④	人事、給与に関する規定等は整備されているか。	4	
⑤	教育活動に関する情報公開が適切になされているか。	3	
⑥	情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	3	

(3)教育活動

	項 目	自己評価	委員意見・評価
①	教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか。	4	<p>◎新しいカリキュラムについて ・令和4年度より変更となる「領域における専門的事項科目」とは今までとどのように変わったのか。またそのことで担当教員の負担は増えるのか。 →小学校の科目として開設していた部分を5領域の科目で開設することとなった。それにより保育士、幼稚園免許をとるために、より専門的な科目を履修できるようになった。担当教員の業績が求められるので、現場の先生方や、本所の教員が業績を積んで担当している。</p> <p>◎保育現場での音楽的な活動の必要性について ・保育者自身が音楽に興味があればピアノを弾いたり身体表現したりと力を発揮してくれる。しかし、興味をもっていないまま現場に入ってきた人は音楽的な活動はしない。 →今まで少人数で1,2年通してピアノレッスンをしていたが、新カリキュラムで音楽の時間が削減されそれが難しくなっている。ピアノが弾ける保育者の育成が今までのようにはできなくなるという懸念があり、本所では少しでもピアノレッスンの時間を確保しようと授業内容を工夫している。</p>
②	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4	
③	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。	4	
④	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4	
⑤	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか。	4	
⑥	関連分野における実践的な職業教育(産業連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか。	3	
⑦	授業評価の実施・評価体制はあるか。	3	
⑧	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。	4	
⑨	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	4	
⑩	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	3	
⑪	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。	3	
	関連分野における業界等との連携		

⑫	において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか。	4
⑬	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組がおこなわれているか。	3
⑭	学習成果の発表を行っているか。	4

(4)教育成果

	項 目	自己評価	委員意見・評価
①	就職率の向上が図られているか。	4	◎退学率の高さについて ・学生の減少が気になる。どのような理由なのか把握していると思うが、それを次に生かす方法を考えることが必要だ。
②	資格取得率の向上が図られているか。	4	
③	退学率の低減が図られているか。	2	
④	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	3	

(5)学生支援

	項 目	自己評価	委員意見・評価
①	進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	4	・特に意見なし
②	学生相談に関する体制は整備されているか。	4	
③	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	4	
④	学生の健康管理を担う体制はあるか。	4	
⑤	課外活動に対する支援体制は整備されているか。	4	
⑥	災害発生時の指導を行っているか。	4	
⑦	事故やけがを保証する学生保険に加入しているか。	4	
⑧	保護者と適切に連携しているか。	4	
⑨	卒業生への支援体制はあるか。	4	
⑩	高校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。	3	

(6)教育環境

	項 目	自己 評価	委員意見・評価
①	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	2	・特に意見なし
②	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	4	
③	防災に対する体制は整備されているか。	4	

(7)学生募集

	項 目	自己 評価	委員意見・評価
①	学生募集活動は、適性に行われているか。	3	◎学生募集の方向性について ・高校生が自分で進路を考えていると短大の幼児科ばかりを探すことになる。高校の先生に生徒の選択肢としてこの学校をプッシュしてもらえるように頼んでいくのが大切ではないか。また、4年生の大学進学を目指しているような高校に学生募集をしても相手にしてもらえないので、ターゲットを絞って募集したらよい。就職希望者が多く進学率の高くない高校に対しても間口を広げ受け入れていく必要もある。
②	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	4	
③	入学者選抜方法が明示されているか。	4	
④	学納金は妥当なものとなっているか。	4	

(8)財務

	項 目	自己 評価	委員意見・評価
①	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	2	◎財務の厳しさについて ・人を増やさないと活気がでないし、財務も厳しくなる。人数が増えればよい噂が広まって人も増えるので、とにかく学生募集に力を注がなければならない。
②	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	3	
③	財務について会計監査が適正に行われているか。	4	
④	財務情報公開の体制整備はできているか。	4	

(9)法令等の遵守

	項 目	自己 評価	委員意見・評価
①	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	4	・特に意見なし
②	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	3	
③	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。	4	
④	自己評価結果を公開しているか。	4	

☺	口し訂画相不をム附しているが。	+	
---	-----------------	---	--

(10)社会貢献・地域連携

	項 目	自己評価	委員意見・評価
①	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	4	・特に意見なし
②	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	3	
③	地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか。	4	

【その他の意見】

・重点目標「学生のソーシャルスキルを上げる(人間関係の構築・言葉遣い・マナー)」については、これからも重点的に取り組んでほしい。専門性ばかりではなく、現場では人間性も必要。どれだけ保育ができてその人の人間性はどうかとを感じる場面は多々あるので、両方身に付けてほしい。

・コミュニケーション力、同僚とチームで協力していく力も身に付けてほしい。現場でコミュニケーションの取り方や人間としての温かみを持ってないまま大きくなってしまったような人も多いように感じられる。高校生の時から良い体験ができたらと願っている。

・看護分野は4年生の大学ができるなど専門性が高まったが、保育の分野は短大、専門学校中心であり保育士という職を目指す高校生が減ったように思われる。

・昔は兄弟姉妹、甥、姪などの親戚が多く、小さい子のお世話をするうちに保育の分野に興味を持つ子が多かったが、今は兄弟姉妹が少ないうえ、年下の子と遊ぶ機会が減少し、子どもに触れることなく大人になっていく。さらにコロナ禍で高校生はオンラインの授業なども増え、対面的に人と触れ合う機会も減り、人間性、コミュニケーション能力に欠ける生徒が増えている。しかし真面目で「人の役に立ちたい」という思いを持っている生徒も多い。子育てに目を向けて地域を盛り上げてほしいと思っている。

・若いうちに幼稚園や保育園で小さい子と関わる体験がとても大切で、子どものお世話をするうちに「子どもってかわいいな」、という思いが生まれる。14歳の挑戦などの事業は大切な経験だと思っている。学園にはせっかく附属の保育園や幼稚園があるので、保育系ではない第一高校の生徒にも子どもと触れ合う機会を作って「子どもってかわいいんだ」という実体験を持つことで将来の進路の選択肢のひとつにしてもらう取り組みをしたらどうか。結果として養成所の学生募集につながればよいと思う。

・卒業生として養成所の良さ(手厚いアフターケア、きめ細やかな指導など)をもっと世の中に知ってほしい。

【令和4年度 重点目標についての報告と意見】

〈重点目標及び学校として取り組んでいきたいことの報告〉

①学生募集

- ・本所の魅力のPRチラシを作って学校案内とともに配布する。
- ・高山方面へも学生募集に出向く
- ・社会人募集のポスターを保育所や子育て支援センターに配布し掲示をお願いする。
- ・積極的にマスコミに取材依頼をし、学校の認知度を上げる。
- ・高校生のための幼児教育体験講座で、学生のピアノなどの実技や図工作品展示など、学校での学びの様子を見える化して紹介する。

②学生の保育力向上を図る

- ・昨年度の重点目標「学生のソーシャルスキルを上げる」を発展させた。学生の気になる点を指導し、保育者としてふさわしい言葉遣い、マナーを身に付けさせたい。
- ・実践的な保育力という面では、授業数が減ってしまった音楽を補うために空きコマを有効に利用し、単位とは関係のない音楽の授業を入れていくなど工夫をしていきたい。
- ・ここ2年間はコロナ禍で行事の中止や縮小をしてきたが、行事の準備が保育力の向上につながっている側面もあるので、学生が主体となって行う行事の機会を確保したい。

③コロナ禍に伴う行事や教育活動の見直し

- ・学生がこの学校に来てよかったと思えるような行事を企画したい。
- ・令和4年度の幼教祭は飲食を伴わず、幼稚園の子ども達を学校に招待する形で行うことになり、準備を進めている。
- ・また、同じ学園の高岡法科大学の「大学祭」に参加し、養成所の学生が子どもコーナーを担当できないかと交渉中である。
- ・北海道研修旅行は近県・期間短縮で代替実施できないか検討中である。
- ・外部のボランティアの参加を推奨する。

〈委員からの意見〉

- ・法科大学祭への参加は、この学園ならではのとても良いと思う。幼稚園の子も法科大学祭を楽しんでいた。学生にとっても充実感、満足感を味わえると思う。
- ・音楽の授業が減ったという話だったが、0歳児でもピアノに合わせて歌おうと体を揺らし心を動かしている姿がある。是非学生には「弾き歌い」の指導をお願いしたい。